

みどりの

題字 寺 門 光 輝

みどりの第96号

発行所 茨城キリスト教大学
茨城県日立市大みか町
6丁目11番1号
発行者 東海林 宏司
編集 地域・国際交流センター

DX推進の社会的要請に向けた 経営学科の取り組み

経営学部長 米岡 英治



本学経営学部は「社会構造の変化と地域社会の新たな要請に応える」ために二〇二一年に設置されました。そして「豊かな教養と専門性を備えた人材の育成」を進めるために、各時代に求められる経営教育を提供してきました。二〇二七年度からはコース制を導入し、二年次生から二つのコースに分かれて学ぶこととなります。今回、このようにコース制を導入するに至った背景、どのような人材育成を目指しているのかを、ご報告します。

現在、日本の多くの組織は、予測不能な外部環境の変化などに対応し、生産性の向上による付加価値の高い業務への集中、新たな価値の創造による競争力の維持・向上、変化に強い組織づくりなどを行う必要があります。そのため進歩が目覚ましいデジタル技術を駆使し、業務の自動化をすすめ、さらに新たな価値創出に繋げるDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進が注目されています。

このような中でICT人材育成が求められ、文部科学省を中心に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」が始まりました。本学においても二〇二二年度から「茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム」として、データサイエンスに関するリテラシー教育を実施しています。このプログラムは、データから価値を創出する一連の過程に関する基礎知識を学ぶものです。

しかし「データサイエンス」「ソフトウェアエンジニア」「サイバーセキュリティ」といった分野に代表される人材がまだまだ不足していることから、理系人材不足解消のための政策が国をあげてとられています。理系人材の育成は今後必要となるさまざまな技術開発を進めるために必要なことです。しかし実際には技術開発を進める理系人材だけでなく、自分たちの組織では新たな技術をどのように活用できるのか、活用するにはどのような仕組み

が必要なのかなどを検討し、導入・活用を推進・マネジメントしていく人材が必要です。そしてこのような人材が不足していることは、企業へのアンケート調査からも明らかになっています。

経済産業省と独立行政法人情報処理推進機構は「デジタルスキル標準」を公開しており、この中で「全員がDX推進を自分事ととらえ、企業全体として変革への受容性を高めるために、全てのビジネスパーソンにDXに関するリテラシーを身につける必要がある。また、DXを具体的に推進するために、専門性を持った人材の確保・育成が必要である」と述べています。そしてデジタルスキル標準ver2.0では、全てのビジネスパーソンが身につけるべき「DXリテラシー標準」とDXを具体的に推進する専門性を持った人材が身につけるべき「DX推進スキル標準」が提示されています。

このような社会からの新たな要請に応えるべく二〇二七年度から本学経営学部経営学科では「ビジネスマネジメントコース」と「デジタルマネジメントコース」の二コース制となります。

「ビジネスマネジメントコース」では、これまで経営学科が目指してきた人材像である「組織全体の課題に対して、専門知識と問題解決能力、行動力を備えた人材」育成をさらに発展させた学びを提供します。「茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム」と学科独自のICTマネジメント系科目を整理・充実させることで、「DXリテラシー標準」に対応した知識を身につけます。また、戦略マネジメント系、ICTマネジメント系、マーケティング系、会計ファイナンス系、地域経済経営系の五分野を、これまで以上にバランスよく履修できるように科目を展開します。これらにより、さまざまな分野の知識と経験をつなげて考え行動できる実践力の習得に向けた学びを強化し、組織が直面する複雑かつ多面的な課題の解決を先導するリーダーとしての総合力を育成します。

「デジタルマネジメントコース」では、将来、「DX推進スキル標準」における「ビジネスアーキテクト」

となるような人材を育成します。「ビジネスアーキテクト」は、「DXの取り組みにおいてビジネスや業務の変革を通じて実現したいこと(目的)」を設定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的の実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する人材」と定義されています。具体的には「データサイエンス」「データマネジメント」「ソフトウェアエンジニア」「サイバーセキュリティ」「デザイン」といった専門分野の人材の役割や業務を理解した上で、どのような仕組みをどのように構築するかを調整・推進していく役割です。そのため、経営の全体像を学んだ上で、ICTマネジメント系を中心に学び、組織におけるデジタル技術活用専門性を磨くことができるように科目を展開します。技術者の育成ではなく、組織内でDX推進等のマネジメントを行う人材の育成です。

今後も経営学科の学びとして大切な部分はしっかりと残しつつ、「社会構造の変化と地域社会の新たな要請に応える」ための変化は行っていく予定です。ご支援よろしくお願い申し上げます。

我が学園の教育理念



茨城キリスト教学園は
キリスト教の精神に基き、
謙虚に真理を追求し、
公正を尊び、真の隣人愛をもって
人と社会に進んで奉仕し
人類の福祉と世界の平和に貢献する
人間の育成を目的とする

グーテンベルク聖書復刻版

学校法人茨城キリスト教学園
キリスト教センター所蔵

キリスト教センター便り

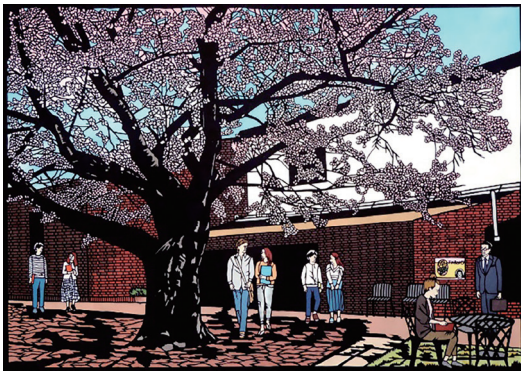
キリスト教センター長 野口良哉

置かれた場所で咲きなさい ～活躍する卒業生の紹介～

○キアラ館前の桜よ、永遠に！

春にはキアラ館を訪れる者たちの目を愉しませ、夏には涼しげな木陰を提供し、それ以外の季節にもキアラ館を映えさせる頼もしい存在だったキアラ館前の桜、名付けて「サクラダ・キアラ」。そんなキアラ館前の桜(ソメイヨシノ)が老朽化し、倒木の危険性があることから、多くの方々に惜しまれつつ、この五月に伐採されました。

ただ、ちょうど良いタイミングと言うべきか、その数年前に本学卒業生の切り絵作家の方から、キアラ館前の桜を描いた切り絵作品「SAKURAキアラ館の春」を贈呈されていたのです。キアラ館前の桜を直に見ることはできませんが、この作品を通してその往時の姿を偲ぶことができます。現在、キアラ館礼拝堂の入り口に展示されていますので、ぜひ、ご覧下さい。



「SAKURA ～キアラ館の春～」
(竹蓋年男 作)

○大学チャペルで活躍する卒業生の紹介

昨年からは始まった大学チャペルの新企画「チャペル・プロフェッショナル」の仕事の流れ。ここでは毎回、それぞれの場所で活躍する本学の卒業生を紹介しております。今までに紹介した例を二、三挙げますと：お笑い芸人をする傍ら、地元で市議会議員をする卒業生。英会話教室やカフェ経営と様々なビジネスを手掛ける卒業生。子ども食堂を切り盛りし、小さき者に寄り添う卒業生などなど。

そして、この六月には、上述した切り絵作家として活躍する本学と本学園高等学校の卒業生、竹蓋年男氏にチャペルでお話をしていたいただきました。なぜ、切り絵作家になったのか、という切り絵作家誕生秘話に、参加者一同、熱心に耳を傾けました。



チャペルで語る切り絵作家
竹蓋年男氏

もし、卒業生の皆さんの中で、我こそはと思う方、あるいは他薦でも構いませんので、置かれた場所で咲いている卒業生の方がいらっしゃいましたら、学園キリスト教センターまで情報を送っていただければ幸いです。



チャペル・
プロフェッショナルの
講師推薦について

二〇二五年度卒業生 (二〇二六年三月卒)の 就職状況報告

キャリア支援センター長代行 小泉 美智子

二〇二六年三月に卒業した学部学生五三三名(文二四二名、生一四三名、看八一名、経六七名)の就職状況は、左記のようになりました。

(二〇二六年五月一日現在)

○就職希望者数：四九七名

○就職希望率：九三・二%

○内定者数：四八九名

○内定率：九八・四%

○就職率：九一・七%
(就職者数/就職希望者数)

○未内定者数：八名

○未内定率：一・六%

○進学者数：二一名

○二家庭者数：二二名

○二〇二五年度卒業生の就職先を産業分類別に見てみると、

【大学全体】トップ5

①「医療、福祉」三三・二% ②「教育、学習支援」一五・三四% ③「卸売業、小売業」一三・五〇% ④「情報通信業」六・七五% ⑤「金融業、保険業」六・一三%

【学科別】トップ3

現代英語学科：①「卸売業、小売業」二三・八% ②「教育、学習支援業」一五・八七% ③「金融業、保険業」一四・二九%

児童教育学科：児童教育専攻：①「教育、学習支援業」八七・二三% ②「医療、福祉」：「卸売業、小売業」四・二六%

児童教育学科：幼児保育専攻：①「医療、福祉」六五・四五% ②「教育、学習支援業」一〇・九% ③「卸売業、小売業」：「情報通信業」五・四五%

文化交流学科：①「卸売業、小売業」「金融業、保険業」一五・七九% ③「情報通信業」：「運輸業、郵便業」一〇・五三%

心理福祉学科：①「医療、福祉」三三・三三%

②「卸売業、小売業」二四・五六% ③「公務」一四・〇四%
食物健康科学科：①「医療、福祉」二八・七七% ②「宿泊業、飲食サービス業」一三・二九% ③「卸売業、小売業」一三・七〇%
看護学科：①「医療、福祉」九三・二四% ②「教育、学習支援業」六・七六%
経営学科：①「情報通信業」二五・四〇% ②「卸売業、小売業」二〇・六三% ③「金融業、保険業」一四・二九%
という結果になりました。

二〇二五年度卒業生の就職内定率は九八・四%となりました。また、公務員試験では公務員試験対策室との連携により三四名が現役合格し、教員採用試験では就職支援センターの指導のもと七三名(うち現役合格者五一名)が合格するなど、学生一人ひとりの努力が確かな成果へと結びつきました。

近年の就職活動は、企業の採用意欲が高まる一方で、選考の早期化・長期化が進み、学生は学業との両立や多くの情報への対応に難しさを感じやすい状況にあります。インターンシップの早期開始やSNSを通じた周囲との比較により、焦りや不安を抱える学生も少なくありません。こうした環境の中で、キャリア支援センターでは、低年次からのキャリア支援を通じて将来を考える機会を提供するとともに、丁寧な個別相談により、学生の適性や希望に寄り添った進路選択を支援していきます。

今後も、学生が自らのキャリアを主体的に描き、納得のいく進路を選択できるよう、学内外の関係部署と連携しながら、多様な経験の機会とさめ細かな支援の充実に努めてまいります。

引き続き、皆さまの温かいご支援とご協力を賜いますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



キャリア支援センター主催
「キャリア講座～EQフィードバック」の様子

活動区分資金収支計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位: 千円)

資金収支	科 目		金 額
	収入	支出	
教育活動による	教育活動資金収入計		5,222,393
	教育活動資金支出計		4,609,559
	差 引		612,834
	調整勘定等		△ 171,019
	教育活動資金収支差額		441,816
施設整備等活動による	施設整備等活動資金収入計		61,000
	施設整備等活動資金支出計		817,218
	差 引		△ 756,218
	調整勘定等		7,119
	施設整備等活動資金収支差額		△ 749,099
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			△ 307,283
その他の活動による	その他の活動資金収入計		1,716,210
	その他の活動資金支出計		1,657,766
	差 引		58,444
	調整勘定等		0
	その他の活動資金収支差額		58,444
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			△ 248,839
前年度繰越支払資金			3,178,093
翌年度繰越支払資金			2,929,254

※合計・差異は、各項目を四捨五入して表記しているため一致しないこともあります。

事業活動収支計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位: 千円)

事業活動収支	科 目		予算額	決算額	差 異
	収入	支出			
教育活動収入の部	学生生徒等納付金		3,599,530	3,585,791	13,739
	手数料		67,675	60,897	6,778
	寄付金		12,890	11,729	1,161
	経常費等補助金		1,112,603	1,367,940	△ 255,337
	付随事業収入		39,919	37,382	2,537
	雑収入		136,687	158,653	△ 21,966
	教育活動収入計		4,969,304	5,222,393	△ 253,089
事業活動支出の部	人件費		3,125,672	3,190,254	△ 64,582
	教育研究経費		1,485,893	1,653,150	△ 167,257
	管理経費		392,011	390,279	1,732
	徴収不能額等		0	6,996	△ 6,996
	教育活動支出計		5,003,576	5,240,679	△ 237,103
	教育活動収支差額		△ 34,272	△ 18,286	△ 15,986
教育活動外収入の部	受取利息・配当金		25,806	30,447	△ 4,641
	その他の教育活動外収入		0	0	0
	教育活動外収入計		25,806	30,447	△ 4,641
事業活動外支出の部	借入金等利息		555	556	△ 1
	その他の教育活動外支出		0	0	0
	教育活動外支出計		555	556	△ 1
	教育活動外収支差額		25,251	29,891	△ 4,640
	経常収支差額		△ 9,021	11,605	△ 20,626
特別収支	資産売却差額		0	0	0
	その他の特別収入		0	2,370	△ 2,370
	特別収入計		0	2,370	△ 2,370
事業活動外支出の部	資産処分差額		38,765	50,204	△ 11,439
	その他の特別支出		70,988	81,055	△ 10,067
	特別支出計		109,753	131,259	△ 21,506
	特別収支差額		△ 109,753	△ 128,889	19,136
	【予備費】		32,578	32,578	0
	基本金組入前当年度収支差額		△ 151,352	△ 117,284	△ 34,068
	基本金組入額合計		△ 265,940	△ 100,000	△ 165,940
	当年度収支差額		△ 417,292	△ 217,284	△ 200,008
	前年度繰越収支差額		△ 5,708,330	△ 5,708,330	0
	基本金取崩額		0	196,013	△ 196,013
	翌年度繰越収支差額		△ 6,125,622	△ 5,729,601	△ 396,021

(参 考)

事業活動収入計	4,995,110	5,255,210	△ 260,100
事業活動支出計	5,146,462	5,372,494	△ 226,032

※合計・差異は、各項目を四捨五入して表記しているため一致しないこともあります。

※決算報告については、大学ホームページの「情報公開」(ホーム)大学について↓情報公開の「財務情報」に詳しく掲載しております。

(法人総務部財務課)

(六) 主要財務指標

学園全体における人件費比率は六〇・七％、教育研究経費比率は三・七・四％、管理経費比率は七・四％、事業活動収支差額比率は△二・二％となりました。

※決算報告については、大学ホームページの「情報公開」(ホーム)大学について↓情報公開の「財務情報」に詳しく掲載しております。

資金収支計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(収入の部)

(単位: 千円)

科 目	予算額	決算額	差 異
学生生徒等納付金収入	3,599,530	3,585,791	13,739
手数料収入	67,675	60,897	6,778
寄付金収入	12,890	11,729	1,161
補助金収入	1,112,603	1,367,940	△ 255,337
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	39,919	37,382	2,537
受取利息・配当金収入	25,806	30,447	△ 4,641
雑収入	136,540	158,653	△ 22,113
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,591,372	1,472,373	118,999
その他の収入	1,727,134	1,929,436	△ 202,302
資金収支調整勘定	△ 1,728,464	△ 1,799,852	71,388
小 計	6,585,005	6,854,796	△ 269,791
前年度繰越支払資金	3,178,093	3,178,093	0
収入の部合計	9,763,098	10,032,889	△ 269,791

(支出の部)

(単位: 千円)

科 目	予算額	決算額	差 異
人件費支出	3,118,328	3,108,245	10,083
教育研究経費支出	1,016,958	1,194,536	△ 177,578
管理経費支出	308,455	306,779	1,676
借入金等利息支出	555	556	△ 1
借入金等返済支出	11,110	11,110	0
施設関係支出	175,516	163,792	11,724
設備関係支出	91,083	89,425	1,658
資産運用支出	564,000	564,000	0
その他の支出	1,573,932	1,748,556	△ 174,624
【予備費】	0	32,578	32,578
資金支出調整勘定	△ 98,663	△ 83,362	△ 15,301
小 計	6,793,852	7,103,637	△ 309,785
翌年度繰越支払資金	2,969,246	2,929,254	39,992
支出の部合計	9,763,098	10,032,889	△ 269,791

※合計・差異は、各項目を四捨五入して表記しているため一致しないこともあります。

貸借対照表

2026年3月31日

(単位: 千円)

資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	17,667,127	17,505,858	161,269
有形固定資産	9,886,886	10,224,090	△ 337,204
特定資産	7,774,584	7,276,584	498,000
その他の固定資産	5,657	5,184	473
流動資産	3,194,393	3,378,352	△ 183,960
資産の部合計	20,861,520	20,884,210	△ 22,690
負 債 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,083,739	1,105,278	△ 21,539
流動負債	1,898,461	1,782,328	116,132
負債の部合計	2,982,199	2,887,606	94,593
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	23,608,921	23,704,934	△ 96,013
繰越収支差額	△ 5,729,601	△ 5,708,330	△ 21,271
純資産の部合計	17,879,321	17,996,604	△ 117,284
負債及び純資産の部合計	20,861,520	20,884,210	△ 22,690

※合計・差異は、各項目を四捨五入して表記しているため一致しないこともあります。

(一) 学校法人会計について

学校法人の会計は、公共性の高い教育研究

学校法人茨城キリスト教学園の二〇二五年度決算は、二〇二六年六月一日の理事会において承認されました。二〇二五年度決算についてご報告いたします。

茨城キリスト教学園
二〇二五年度(令和七)決算報告

活動を行う非営利の学校法人が、永続的に活動していくため、在学生や保護者などステークホルダーに対し、収支の均衡状態や財政状態を正確に把握していただけるよう「学校法人会計基準」に基づき処理し、公表しています。

(二) 貸借対照表

年度末における学校法人の財政状態を示しています。二〇二五年度末時点の固定資産は対前年一億六二六万九千円増の一七六億六七一二万七千円、資産の部は二〇八億六六五

二万円、負債の部は二九億八二二万九千円、純資産は一七八億七九三二万一千円で、前年度より一億一七二万四千円減少しました。

(三) 事業活動収支計算書

学校に入ってきた事業活動収入が、事業活動支出という形で学生にどれだけ還元できているかをみることができま。二〇二五年度の事業活動収入は五二億五二一万円、事業活動支出は五三億七二四万四千円でした。よって、基本金組入前当年度収支差額は一億一七二万四千円の支出超過となりました。

(五) 活動区分資金収支計算書

資金収支計算書を、「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分に分け、区分ごとの収支差額を出すことで、どの活動で資金を獲得し、どの活動に資金を使用したか、学校の資金体質が分かるものです。教育活動では、四億四一八一万六千円の資金を得ました。施設整備等活動では、学園中期経営計画に基づく施設整備を進めた結果、七億四九〇九万九千円の支出超過となりました。具体的には、大学十一号館空調機更新工事や、大学・中学校・高等学校校舎LED照明交換工事など、建物合計で一億五二八万一千円、こども園駐車場整備工事など構築物合計で一億一千万円を支出しました。その他の活動では、借入金の計画的な返済、税金等預り金などの収入や支出により、五八四四万四千円の収入増加となりました。

(四) 資金収支計算書

当該年度の諸活動に対応する全ての収入・支出の内容並びに支払資金のてん末を明らかにするものです。

資金収入は六八億五四七九万六千円、資金支出は七億一億三三三万七千円となり、翌年度繰越支払資金(現預金)は二九億二九二五万四千円となりました。

二〇二五年度 学園寄附事業報告

茨城キリスト教大学
寄附事業委員会

二〇二五年度に皆様からお寄せいただいた寄附は、二八六件、一〇八五万四二二三円となり、年間目標である一〇〇〇万円を達成しました。学園を支えてくださる皆様の厚意に、心より感謝申し上げます。

皆様からのご寄附は、「教育振興資金」等の各種基金を通じて、教育環境の充実や学生支援のために活用させていただきます。大学では、「ICC未来サポート基金」により学生会館の長テーパー用椅子を更新し、学生がより快適に交流できる環境を整備しました。また、学生が礼拝等で利用するキアラ館では、「キアラ館基金」を活用し、礼拝堂の補助椅子および収納ワゴンを設置しました。さらに、アンスのバラ育成の環境整備を進め、キャンパスの緑化とともに、平和教育の推進にも役立てています。

また、「ICCグローバル人材育成奨学基金」により、海外からの留学生二五名に総額四二八万円を、一方、交換留学等に参加する学生六名に対しては総額一〇〇万円の奨学金を給付、国際的な視野を広げる学びを支援しました。昨年は円安や物価高騰の影響で、留学を志す学生には厳しい経済環境でしたが、この給付型奨学金が学生の大きな支えとなり、充実した留学生活の実現につながりました。

なお、「ICCグローバル人材育成奨学基金」では、本やDVD、貴金属、ブランド品等をリサイクルして寄附できる「リサイクル募金」もご利用いただけます。詳細は寄附サイトをご覧ください。

皆様のご支援は、未来を担う学生への大きな励みとなっております。学生一人ひとりが豊かな学びを通して成長し、地域社会や国際社会で活躍できるように、引き続き寄附事業へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



寄附サイト

「ぞうだ！茨キリに 会いに行こう！」

ホームカミングデー2026
開催のお知らせ

茨城キリスト教大学同窓会

日頃より大学同窓会活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

この春卒業された新しい仲間が加わり、同窓会会員は一五、〇〇〇名を超えました。

懐かしいキャンパスであの頃に戻り、交流を深める場として「ホームカミングデー2026」を開催いたします。

皆様のお越しを心よりお待ちしております！

□ 日 時：二〇二六年八月二十二日（土）
十三時三十分～十五時

□ 場 所：茨城キリスト教大学
（大学一号館5F）
（受付 十三時～）

□ 対 象：二〇〇三～二〇二三年卒業生
および現教職員

□ 内 容：懇親会
野口チャプレンによる腹話術
抽選会（お手元に届いた案内ハガキをお持ちください）ほか

□ 参加費：五〇〇円
（当日受付にてお支払いください）

□ 申込方法：こちらのフォームよりお申し込みください



IBAKIRI.DOUSOU
Instagram



Facebook



QRコード

「茨城キリスト教大学同窓会」の活動はInstagramとフェイスブックでも発信しております。

地域・国際交流センター便り

以下の情報を含む最新情報をこちらのページに公開しています。ぜひご覧ください。



聴講生制度

十八歳以上の方が正規の学生としての身分を持たずに大学の授業を聴講できる制度。三月下旬に情報公開予定。

公開講座

前・後期に語学、カルチャーなどの内容を定期、本学の特徴を生かした内容を不定期で開講しています。

「ともに、いきる。」を実現する大学

茨城キリスト教大学 2027年度入試日程

試験区分	出願期間	試験日	合格発表
総合型選抜入試1期(文・生・看・経)	9/1～9/24	10/10	11/2
総合型選抜入試1期(未来教養学環)		10/17	
総合型選抜入試2期	11/24～12/4	12/12	12/16
学校推薦型選抜入試 (指定校推薦・一般推薦・地域特定推薦)	11/2～11/6	11/14	12/1
一般選抜入試1期	1/7～1/21	2/3	2/12
一般選抜入試2期	2/4～2/18	3/3	3/9
共通テスト利用入試1期	1/7～1/25	1/16・(注1)	2/13
共通テスト利用入試2期	2/19～3/4	1/17	3/12
社会人・帰国子女・外国人留学生入試	10/1～10/9	10/17	10/23
一般編入・転入・学士入試(10月期)	10/1～10/9	10/17	10/23
一般編入・転入・学士入試(3月期)	2/15～2/26	3/6	3/12
大学院入試Ⅰ期	10/1～10/9	10/17	10/24
大学院入試Ⅱ期	2/15～2/26	3/6	3/12

※総合型選抜入試1期・2期、一般選抜入試1期、共通テスト利用入試1期、一般編入・転入・学士入試(10月期)、外国人留学生入試
学費延納期限：3/25(木)

※一般編入・転入・学士入試、外国人留学生入試および大学院入試に出願希望の方は、出願期間前の事前相談が必要です。

(注1)本学個別試験なし

■文学部

現代英語学科
児童教育学科
〈児童教育コース〉
〈幼児保育コース〉
文化交流学科

■生活科学部

心理福祉学科
食物健康科学科

■経営学部

経営学科

■看護学部

看護学科

■未来教養学環

■大学院

文学研究科
英語コミュニケーション専攻
看護学研究科
看護学専攻

生活科学研究科
食物健康科学専攻
心理学専攻

お問合せ先

入試広報部 電話0120-56-1890

E-mail:nyushi@icc.ac.jp 本学公式サイト <https://www.icc.ac.jp/>

コール イバキリ